

氏名： 鷹野 光行 (TAKANO Mitsuyuki)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 文学修士 (1974年 東京大学)
専門分野： 考古学・博物館学
E-mail： takano.mitsuyuki@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

考古学／博物館学
archaeology / museology

◆主要業績

- ・鷹野光行編『鹿児島県指宿市敷領遺跡(中敷領地点)の調査』文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「わが国の火山噴火罹災地における生活・文化環境の復元」による発掘調査報告書 2009.3
- ・「学芸員養成科目—なぜこのような構成なのか」お茶の水女子大学博物館実習報告 24 2009.2
- ・鷹野光行編『東京都三宅島ココマ遺跡発掘調査報告書』2009.3
- ・「前浦式土器」『総覧縄文土器』アムプロモーション 2008.6

◆研究内容 / Research Pursuits

2004年度から交付を受けている文部科学省科学研究費補助金(特定領域研究)による「わが国の火山噴火罹災地における生活・文化環境の復元」の研究をすすめた。平成19年度までの研究成果に基づき、今年度は敷領遺跡内の別地点についての発掘調査を行い、874年の開聞岳の噴火によって埋もれた当該地域の土地利用及び生活環境の復元に関するデータの収集を行った。発掘調査地点は小字名をとって中敷領地点とし、検出した遺構は9世紀後半の噴火による降灰で放棄された建物跡で、これにより、当時の人々の生産の場と生活の場の違いを明らかにできた。またこの建物の周辺には火山灰の厚い堆積がなく、住民たちによって火山灰の除去などある程度の復旧作業が行われたことがうかがわれる。また、関連する調査として、昨年調査した東京都三宅島のココマ遺跡の発掘調査報告書を作成した。関連資料収集のため、イタリア・ニュージーランド・アメリカに赴いた。

学芸員養成のために必要な科目の構成や内容の検討も行っている。

I pushed forward a study of “the reconstruction of life / the culture environment in the volcanic eruption affliction place of our country” by the grant-in-aid scientific research which caught from 2004. I performed the excavation about the other spot in the site of Shikiryo this year based on results of research until 2007, collected data about the land use of the area buried by eruption of Mt. Kaimondake of 874 concerned and the reconstruction of the living environment. The excavation spot assumed Nakashikiryo point after subsection name, and the remains of an ancient structure which I detected were able to clarify the difference of a place of the production of then people and the place of the life by this with a building trace abandoned by a fall of ash by the eruption in the latter half in the ninth century. In addition, there is not the thick sedimentation of volcanic ashes, and it is indicated around this building that some the removal of volcanic ashes repair work was performed by inhabitants.

For allied document collection, I proceeded to Italy, New Zealand, and U.S.A.

I perform the constitution of a necessary subject and the examination of contents for the curator training.

◆教育内容 / Educational Pursuits

[学部]

1. 博物館実習：実習履習者 21 名について、学内実習、実務実習、見学実習を実施。
2. 博物館学概論：博物館の目的と機能、歴史と現状、博物館倫理、博物館関係法規について講義した。
3. 博物館資料特殊講義：博物館活動の根幹をなす資料の取り扱いについての講義。
4. 考古学通論 1/2: 考古学の定義、研究法、など縄紋時代を題材として講義した。
5. 社会教育特講 3: 文化財の保護について、歴史、制度、外国の状況、埋蔵文化財の諸問題を講義した。

[大学院]

1. 博物館教育論：博物館の教育活動に関する実態調査を博物館の年報を利用して行った。
2. 文化マネジメント論演習：受講生による展示会開催を目標として、展示プラン作成を競作し、最終的に「百万ドルの世界旅行」と題する、展示を歴史資料館を使用して実施した。

◆研究計画

科学研究費の特定領域研究があと 1 年で終了するので、ここ数年、その研究結果をきちんとまとめることが必要である。

また、学芸員の養成の在り方が平成 24 年度から必修単位数が 19 単位となるので、それへの対応を考えなければならない。

◆メッセージ

大学では高校までにはなかったさまざまな分野の研究／教育がおこなわれます。また学芸員をはじめとして各種の資格／免許が大学の学修によって得られます。新しい分野に好奇心を持って、チャレンジして欲しい。

